みんなの会代表委員・幹事会知事あいさつ

平成６年６月１７日
北海道教育会館

みんなの会の代表委員、幹事の皆さん方には、本日お集まりをいただきありがとうございます。一時間ほど予定が議会の状況で遅れてしまい申し訳なく思っています。

考えてみますと、丁度１９８２年の１１月に、８３年の４月の知事選挙に向けての出馬表明をしたのですが、その時に梶浦さんはじめたくさんの皆様方が代表委員ということで、全道的な支援組織としてみんなの会を作っていただいた訳です。当時の状況を考えてみると、各政党、団体ですね、本当にこのみんなの会だけが唯一の私の支援組織だったと思っています。なかなか大変な知事選挙で、本当に不可能を可能にするという戦いだった訳ですけれども、全道各地のみんなの会の皆さんのご支援で、激しい戦いの中で勝利を収めることができました。私にとっても、大変いろんな出会いのあった戦いだったと思い起こしています。

あの時から、二期、三期と皆様方のご支援をいただきながら道政に取り組んできたところです。今回の任期も来年の４月というところまできました。私としては、当初出発した時に考えていた様々な構想というものがあった訳ですが、それらの仕事について大体土台を作ることができたのではないか、このように考えて知事という仕事に一つの区切りをつけたいと思っています。みんなの会の皆さんからは４選に向けてのご支持もいただいていた訳ですし、或いはまた、いろいろな世論調査などを見ましても、道民の皆さんからの大変強い４選への期待もあり、その点は本当にありがたいことだと受け止めておりますが、一つの区切りをつけることも大切ではないかと考え、来年の知事選挙には出馬しないということを決意した次第です。どうか道民の皆さんにも、また、みんなの会の皆様方にもご理解とご了承を賜りたいと考える次第です。それにしても、今日まで本当に温かいご支援ご協力をいただいたことを、心から感謝を申し上げたいと思います。

丁度、私が知事に就任した１９８３年という年は、北海道にとって大きな構造転換の年だったと思います。非常に閉塞した状況、出口がないという中で、ともすると、ここは開拓が政府主導で進められてきたということで、道民の中には２つの傾向、一つは官依存という体質があります。もう一つは、新しいことに挑戦していくという開拓者精神があります。あの厳しい状況の中で、どうも道民の気持ちはまた官依存という気持ちになっているのではないか、これではいけない、やはり地域の発展はそこに住んでいる人々のエネルギーを掘り起こして、私どもの先輩である開拓者、先人の持っていた開拓者精神を掘り起こして地域づくりを進めていこう、そんな気持ちで道政のスタートを始めた訳です。

したがって、私は、北海道のそれぞれの地域が持っている内発的なエネルギーをまず掘り起こすということを仕事の第一にして、できるだけ先頭に立って行動する知事、また新しいことに次々と挑戦していこうと、こんな気持ちで積極的な道政運営を心掛けてきたところです。幸いに、多くの道職員の皆さんや道民の皆様のご協力をいただきまして、国際化、高齢化、情報化と良くいわれますが、そういうことに向けても、北海道が将来２１世紀に向けて発展していくための土台を作るのが私の大きな仕事であると考えていました。これらの仕事については、私として、やるべきことはやったのではないかと考えています。それだけに、仕事を一緒にやってきた道の職員には大変いろいろと苦労もかけました。つまり、今までやったことのない新しい仕事が大変多かった訳です。どの分野についても、新しい仕事に取り組んでいくというためには、いろいろなノウハウの蓄積をしていかなくて

はならない訳です。そんな幅広い仕事、例えば貿易ということで、ロシアとか中国とかカナダなどを含めた北方圏地域の貿易の仕事などを考えてみても、今までまったく道として付き合ったことのなかったソビエト、ロシアと交流をしながら、経済交流を進めていくというような仕事は本当に初めてのことだったのですけれども、今は、この対岸の各州の中に、私どもの職員が本当に顔なじみで、電話一本で話のできる、そういうようないわばノウハウというか人材が養成され蓄積されまして、これは将来非常に大きなパワーになるものと考えています。

私は、昨日稚内から戻ってきたんですが、その前の日、２日ほど、留萌管内をまわりまして、地域の人々といろいろ話をしながら見てまいりました。留萌管内の小平町というところで、「おにしか更生園」という知的障害者の施設を訪問しました。この隣に、町や私ども道がバックアップをしてパンを作る工場ができたんです。このパンの工場は、その施設に入っている園生の人と街の人が一緒に製造したり販売をするということなんですが、その施設長から、ようやくうちの園生もまちの中でいろいろな子と一緒に生活することができるようになって、生活寮での生活を始めましたという報告をいただき、私も大変うれしく思った訳です。というのは、ノーマライゼーションという福祉の理念を掲げて、施設に収容するのではなくて、施設と地域の連携を強めていこう、やはり障害をもった人々も、高齢者もそうですし、地域の中で出来るだけ生活をしたいというように考えている訳でして、そういった障害者の人々の自立ということを道政の一つの大きな柱にしてきた訳です。この施設などは、地域の人々の大変な協力をいただいて、施設の中からまず企業に毎日朝通って仕事をする、だんだん仕事に慣れてきたら今度は街の中で生活をする、初めは４、５人一緒に生活をして、さらに自立出来るようになったら一人で今度はアパートでも借りて生活する、こういった施設がいま道内に大変広がってきている訳ですが、そういった地域で、地域の人と一緒に生き生きと活動しておられる人々の姿を見て、本当に素晴らしいことだなと思って、この度の小平町訪問をさせていただきました。

その後、稚内にまいりまして、稚内の街はいまもうロシア人であふれていまして、その日も１２隻の船が稚内に入港していました。昨年１年間、稚内に入った船の数というのは１千隻、上陸した人は２万２３００人なんですが、いま現在既に８０％ぐらい増えて人がきています。稚内にとって、地域の活性化、発展のために何が必要かというと、結局今までは宗谷海峡というのは非常に閉鎖的な海峡でしたから、稚内の街の人々は札幌を見、東京を見て生活するしかなかった訳です。それが、こうして交流が広がって、来年の５月からは小樽、稚内、サハリンというまさに５０年前の航路が復活することになりました。正式に決まりました。そんな意味では、市長や商工会議所の会頭にもお目にかかりましたけれども、稚内としてようやく地域が活性化していく一つの方向性というのが具体化されたと大変喜んでおられましたけれども、これも、私どもの職員がサハリンとの間で今まで毎年行ったり来たりしながら協議をして積み重ねてきた結果です。それで、留萌、稚内と回ってみましても、地域の人々が本当に魅力のある人々が多いなということを改めて感じた訳です。

１１年間の知事の仕事をやりまして、もちろんいろんなことがありました。最初の年、大変な冷害に遭いまして、その時に神奈川県のある人がテルテルボウズを送ってくれたんですね。本当にうれしかったのですけれども、天気とか災害というのは祈るしかない訳でして、私は最初に就任した１年間、本当に空を眺めては祈ってばかりいました。１１年間の知事の仕事というのも、ある意味では毎日毎日が祈りの毎日であったといえようかと思い

ます。同時に、やはりたくさんの人々にご支援をいただいたという意味では、本当に感謝の気持ちで一杯です。北海道を回りまして、何よりもいろんな人々と対話をして、そして本当にいろんな分野でどの地域ににも活躍している魅力ある人がいる魅力ある地域が２１２の市町村だということが、この１１年間の知事の仕事をしての私の結論です。

そして大変うれしいことは、昨年８月に道民意向調査というのをやりまして、いま住んでいる街や村は住みごことはどうですか、８４％の人がいいですよと、いま住んでいるところに将来とも住みたいですか、７８％の人が住み続けたい。この１０年間、この数字というのは毎年調査の度に確実に上がってきている訳でして、このことは私にとって大変うれしいことです。郷土を愛する気持ち、或いはその地域に定住する気持ちというものを道民の皆んなが持つようになれば、８３年スタートの時にややもすると依存心というところがあった訳ですけれども、そうではなくて、自ら定住して愛する気持ちを持って考えていくというものが生まれてきたのかなと考えています。

これからどうするかということについては、まだ結論を出していません。この１１年間進めてきた知事としての経験というものを生かすことが出来ればと思っています。ただ、どういう道を選ぶにしても、私どもの愛する北海道、この北の大地に両足をしっかり据えて将来とも活動を続けてゆきたいと考えています。もう既に、ポスト横路ということでの後継者選びが、連合や関係の政党を含めて進められています。まだ名前があがる段階ではなくて、政策協議をしている段階というように承っておりますが、どういう方が候補者として立候補されることになるのかわかりませんけれども、みんなの会の皆さんと基本的に考え方が同じということであれば、ぜひその人をみんなの会としてもご支援をしていただきたいなと考えています。

今まで、新聞でいろいろと報道されまして、私も何かその蟻地獄に落ちそうな気がしない訳でもなかったのですが、そんな意味で、皆さんにも去年の暮れからいろいろと心配をおかけをして、この間、お話をする機会がなくて大変申し訳なく思っています。いろいろな事情、状況の中で、この議会、今日から始まりましたけれども、議会の皆様方にも表明をさせていただきたいと思っています。そんなことで、遅くなりましたことをお詫び申し上げながら、この間、大変温かいご支援をいただきましたことに心から感謝を申し上げまして、一言あいさつとします。どうもありがとうございました。